

飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

第 421 回 新しい「歴史」の到来！

2011.5.29

何か、日本人と日本国がおかしくなっているような、ある種“恐怖感”に苛(さいな)まれている。

100年に一度のリーマンショック(08年9月)、民主党による社会主義的政権の誕生(09年8月)、尖閣列島中国漁船衝突事件におけるビデオ流出問題(10年9月)、そして今回の1000年に一度の大震災(11年3月)と、わずか4年もたたないうちに、今まで予想すらしなかった大事件が頻繁に起こっている。「想定外」という言葉に慣れきってしまったほど、異常なる歴史がひしひしと動いている。

この、わずか4年間、日本国や日本人の「価値」は大きく下落させた歴史であるように思える。たぶん何十年に匹敵する「**必衰への歴史の流れ**」を一気に過ごしてしまった4年間、日本を創り支えてきた先人達に、何と詫びたらいいのか、言葉がない。

失われた経済的価値は数値として検証できる。

しかし信頼と信用という、日本人の最も尊ぶべき理念が無くなった「ツケ」は、計数化、計量化は不可能で、世界経済、外交において計り知れない国益の損失として、これから益々顕著化されるだろう。

目先の利益しか見ようとしなない、従ってやるのがすべて「場当たり」、昔の日本であればこんな政治家は最も軽蔑された輩(やから)であった。

自分のことは棚に上げ、悪いのは全部「他人(ひと)」のせい、誰も責任をとらない無教養で無礼なタイプは、卑しい最低な人間としての倫理観をもっていた。

「**自利利他**(じりりた)」という教えはあったが、「自利自利」や「ジコチュウ」なんて発想も言葉も存在しなかったと思う。強欲とは日本人が一番嫌いな言葉だった。

テレビで「嘘」を繰り返す政治家の記者会見は、どんな劣悪なバラエティ番組よりも教育上よろしくない。子供に見せることができないでいる社会なんて、どこにあるのだろうか。政治家に限らない。こんな人種が、我々の周りに多数生息しているのに、驚くばかりである。「類は友を呼ぶ」とは、今の現象、こんな人種の連中が同タイプのリーダーを選び、「自利自利」の実践を期待する、そんな悪循環の4年間であったと思わざるを得ないようだ。

30年、40年の永き時を平和ボケに慣れ染まり、リスクや危機感に対する備えを全く忘れてしまった日本人。世界中の、根絶なき悲劇や悲惨な状況を見ようとしなない。日本だけは、いや自分だけは、そんなことありえない！まるで腑抜けな夢遊病者の如き日本人が、今、大きな試練に直面している。

こんな時こそ、むしろチャンス、今こそ日本人の美学を取り戻そう。

日本人の誇り高き尊厳と、日本国の圧倒的格式をもう一度思い出し、無上なジェントルのリーダーとして、再スタートを目指すべき時が来たと思う。

日本人以外ではできない「**優位特性**」を思い出し伸ばすことである。日本人としての弱みよりも強みに目を向け、強みを伸ばすことだと思おう。

それは政治、経済に限らず、学問、研究分野、思想やイデオロギー、文化や芸術も含め最先端の日本流優位特性を、世界に向けて発信していこう。それが日本復興・復権の、最高のシナリオになる筈で、新しい「歴史」の到来といえるだろう。